# 事業の状況

## 金融経済環境

当中間期におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症の再拡大により、景気は依然として厳しい状況にありますが、輸出の緩やかな増加や生産の持ち直しが続いており、企業収益についても持ち直しの動きとなっております。

当行の主要基盤である北部九州の経済につきましても、雇用や所得環境に弱い動きが見られるものの、輸出や生産が増加基調にあり、景気の持ち直しが続いております。

金融業界につきましては、マイナス金利政策が継続する資金運用環境下、企業向け貸出や個人ローンマーケットにおいて、金利は極めて低水準で推移しています。引続き日米欧の金融緩和政策や、感染拡大防止に向けた緊急経済対策が及ぼす影響等について留意する必要があります。

## 2021年度中間期の業績等

このような経済情勢の中で、グループ役職員一同総力をあげて業績の一層の進展と経営の効率化に努めて参りました。2021年度中間期の業績は次のとおりです。

### ◆預金、貸出金等

当行グループの財政状態につきましては、当中間連結会計期間末の譲渡性預金を含めた預金等は前中間期末比で1,611億円増加、前期末比では67億円増加の２兆7,153億円となり、貸出金残高は前中間期末比で345億円増加、前期末比で259億円減少の１兆9,902億円となりました。

有価証券につきましては、当中間連結会計期間末残高は前中間期末比で854億円増加、前期末比では272億円増加の6,292億円となりました。

### ◆損益状況

当中間連結会計期間の連結経営成績につきまして、経常収益は、貸出金利息や有価証券利息配当金の増加を主因として資金運用収益が増加したことや、役務取引等収益が増加したこと等により、前年同期比14億51百万円増加し222億36百万円となりました。

経常費用は、営業経費の減少等があったものの、貸倒引当金繰入額の増加によるその他経常費用の増加等があったことにより、前年同期比3億74百万円増加し188億18百万円となりました。

この結果、経常利益は、前年同期比10億76百万円増加し34億17百万円となりました。

また、親会社株主に帰属する中間純利益は、前年同期比7億35百万円増加し20億64百万円となりました。

### ◆当行単体の業績

当行単体の業績につきましては、経常収益で前年同期比16億45百万円増加の186億16百万円、経常利益で前年同期比11億68百万円増加の34億90百万円、中間純利益で前年同期比8億43百万円増加の22億86百万円となりました。

当行単体の財政状態につきましては、当中間会計期間末の譲渡性預金を含めた預金等は前中間期末比で1,611億円増加、前期末比では64億円増加の2兆7,199億円となり、貸出金残高は前中間期末比で342億円増加、前期末比では260億円減少の1兆9,989億円となりました。

有価証券につきましては、前中間期末比で857億円増加、前期末比で272億円増加の6,366億円となりました。